

## 4. 科研費トピックス

### 平成25年度科研費(補助金分・基金分)の配分について(第2回)を公表しました。

10月31日、今年度第2回目の科研費(補助金分・基金分)の配分結果を公表しました。今回配分結果を追加したのは、「特別推進研究」(新規分)、「新学術領域研究(研究領域提案型)」(新規分)、「基盤研究(S)」(新規分)、「研究活動スタート支援」(新規分)、「研究成果公開促進費(国際情報発信強化(A)、オープンアクセス刊行支援)」(新規分)、「特別研究員奨励費」(1～2回)の6種目です。

新規研究課題については、約10万2千件の応募に対し約3万件を採択し、採択率29.1%、総額約7百7億円となりました。

区分	研究課題数			配分額 (百万円)	1課題あたりの配分額	
	応募件数(件)	採択件数(件)	採択率(%)		平均(千円)	最高(千円)
新規採択のみ	(96,293)	(29,044)	(30.2)	(70,471)	(2,426)	(152,500)
	101,546	29,523	29.1	70,666	2,394	180,800
新規採択+継続分	(143,623)	(76,212)	(53.1)	(171,580)	(2,251)	(159,200)
	150,917	78,779	52.2	175,060	2,222	180,800

※配分額は直接経費※( )内は前年度を示す。

※基金化及び一部基金化した研究種目については、平成25年度の当初計画に対する配分額を計上している。

※「新学術領域研究(研究領域提案型)」「生命科学系3分野支援活動」、「特別研究促進費」及び「特定奨励費」を除く。

詳細なデータについては、下記のホームページを御覧下さい。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/1341053.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1341053.htm)

### 平成26年度科学研究費助成事業公募要領等説明会を実施しました。

9月3日から9月11日にかけて、全国8会場で、「平成26年度科学研究費助成事業公募要領等説明会」を文部科学省と日本学術振興会が合同で開催しました。

本説明会には、のべ2千人以上の方にご参加いただき、科学研究費助成事業の概要、平成26年度公募要領、研究費の不正使用、研究における不正行為の防止等について説明を行いました。

当日の資料については、下記のホームページを御覧下さい。

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shinkou/hojyo/1339563.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/hojyo/1339563.htm)

### 科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2012)の結果について

日本の科学技術やイノベーションの状況変化を把握するため、科学技術・学術政策研究所により、産学官の研究者・有識者に対する意識定点調査が実施(2011年度～2015年度の5年間に渡って実施する調査の2回目)され、調査結果が公表されています。(http://www.nistep.go.jp/archives/9045)

▲「科学技術の状況に係る総合的意識調査(NISTEP定点調査2012)」[NISTEP REPORT No.153, 154]

科研費制度については下図のとおり、ほぼ全ての大学グループ・分野で指数が向上しています。指数は、4.5～5.5でほぼ問題はなく、5.5を超えると状況に問題はないことを示しています。

問	質問内容	大学	公的研究機関	民間企業等	大学グループ別				大学部局分野別			
					第1グループ	第2グループ	第3グループ	第4グループ	理学	工学	農学	保健
Q1-19	科学研究費助成事業(科研費)における研究費の使いやすさ	4.5→4.9	4.7→4.8	—	4.7→5.3	4.3→4.7	4.8→5.1	4.5→4.8	5.0→5.7	5.1→5.4	4.1→4.6	3.8→4.0
Q1-20	研究費の基金化は、研究開発を効果的・効率的に実施するのに役立っているか	7.1→7.2	6.7→6.9	—	7.8→7.8	6.8→6.9	7.0→7.2	7.1→7.1	8.0→7.9	7.0→7.0	6.7→6.9	6.9→7.0

注1：大学・公的研究機関グループにのみ質問を行ったので、民間企業等の集計は空欄となっている。

## 科学研究費助成事業(科研費)にかかわる調査結果

- 科研費の使いやすさについては、基金化によって研究費が使いやすくなったこと、年度間繰り越しが行いやすくなったことなどが評価を上げた理由として挙げられています。
- 研究費の基金化は、研究開発を効果的・効率的に実施するのに役立つとの認識が、全ての属性において示されています。指数値は大学で7.2ポイント、公的研究機関で6.9ポイントであり、2011年度調査から引き続いて定点調査の質問の中で一番高い指数値となっています。

科研費制度は研究者・有識者から高い評価を得ていることが分かりましたが、審査制度や研究費の使いやすさの改善は今後も重要であると考えており、引き続き制度の改善を図っていきます。

## 学術調査官(科学研究費補助金担当)を任命しました。

8月1日付で、文部科学省の学術調査官(科学研究費補助金担当)27名のうち、13名を新たに改選、任命しました。科研費担当の学術調査官は大学等の現役の研究者により構成され、科研費の審査・評価、制度全般の改善、広報等に関する業務について、専門家の立場から幅広く関わっています。(人文・社会系:4名、理工系:12名、生物系11名)



## 審査委員を表彰しました。

日本学術振興会の学術システム研究センターでは、科研費の審査結果の検証を行い、翌年度の審査委員の選考に適切に反映させています。

このたび、平成25年度の審査を行った第1段(書面)審査委員約5,300名の中から有意義な審査意見を付していただいた審査委員124名を選考し表彰しました。

表彰については、本会のホームページ等を通じて公表するとともに賞状と記念のメダルを贈呈しました。

【掲載ホームページアドレス】

[http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26\\_hyosho/hyousyou\\_2013.html](http://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/26_hyosho/hyousyou_2013.html)

## 平成26年度ひらめき☆ときめきサイエンスの実施プログラムを募集します。

募集内容、応募手続きについては、募集要領をご覧ください。

【掲載ホームページアドレス】 <http://www.jsps.go.jp/hirameki/boshu.html>

### 募集の概要

**I.事業の趣旨・目的** 本事業は、我が国の将来を担う児童・生徒を対象として、研究者が科研費による研究成果を基礎としながら研究の内容について分かりやすく発信することを通じて、児童・生徒の科学的好奇心を刺激し、心の豊かさや知的創造性を育み、学術の文化的価値及び社会的重要性について示し、もって学術の振興を図ることを目的としています。

**II.応募資格** これまでに、科研費の研究代表者として研究を実施したことがある研究者が所属している大学及び大学共同利用機関等の機関とします。

**III.募集するプログラム** 以下の項目をすべて満たすプログラムを募集します。

- 1) 小学校5・6年生、中学生及び高校生のいずれかを対象とすること。
- 2) 科研費の成果の基礎をより分かりやすく、おもしろく伝える内容であること。
- 3) 機関の組織的な取り組みとして行われること。
- 4) 平成26年7月下旬～平成27年1月下旬に開催されること。

